
未来時計

みゆりい

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来時計

【Nコード】

N6004H

【作者名】

みゆりい

【あらすじ】

あこがれの先輩を追って『青空高校』に入学した『夏川春奈』はあこがれの先輩『水城廉』に片思いをしていた……。が、廉には好きな人がいる事を知る春奈……。そんな春奈に廉の親友『安部悟』が春奈に……。!?

1・再会

未来時計

1・【再会】

そう、この日は、高1の春の桜の綺麗な季節だった。

私は憧れの先輩との再会のため、青空高校に進学した、私の時計はまっすぐに動いていた。

高校1年の春

春奈『今日から一期高校の生徒かあゝ水城先輩と同じ高校に進学できるなんて〜!』

そう、私、『夏川春奈』は、『水城廉』先輩と同じ高校に通うためにここ、『青空高校』に進学したのです。

春奈『はあゝ、これから水城先輩と一緒に過ごすことができるなんて・・・』

亜紀『春奈!なにやってんのよ!はやくしなきゃ遅刻しちゃうじゃない!』

この子は私の親友の『篠崎亜紀』しのざきあき小さいころからの幼馴染で、パパがある会社の社長さんで、超お金持ちのお嬢様なのです。

亜紀『ちよつと、春奈、聞ってるのお?』

あきれながら言った。

春奈『えっ、何?』

亜紀『だあゝかあゝらあゝ、水城先輩のこと!で?どつすんのよ』

ニヤニヤしながら聞いてくる亜紀。

春奈『・・・どうするって?』

亜紀『はあ?告るか告らないかはつきりしろってこと!』

春奈『んゝ、よくまだ分かんないや』

亜紀『告っちゃえばいいじゃない!女は度胸!当たって砕けろ!ってね』

亜紀はこぶしを握りしめ、強く言った。

春奈『(『あたって砕けろ』って、砕けたら終わりじゃん)』

亜紀『あつ、ほら、噂をすれば水城先輩じゃん！ほらっ！ボサっとしてないで行ってきなさいよ！』

（バシッ）亜紀が春奈の背中をたたいた。

春奈『ちよっ、ちよっと亜紀！』

亜紀『行つてらっしゃい♪、頑張つてね〜！』

亜紀はにこやこやかに笑いながら手をひらひらと振った。
これは絶対に楽しんでいる。

（どんっ）誰かにぶつかった。

春奈『痛つたあ〜！あつ、ごめんなさい！よそ見てたら、その・
・水城先輩！』

春奈の目の前には、黒い少し伸びた髪、黒い澄んだ瞳に、凜として立つ。

春奈が憧れていた水城先輩がいた。

水城『あつ、夏川！そういえばお前、うちの高校に進学するって言つてたっけ、これからよろしくな』

水城は、愛想よく春奈にはほ笑んだ。

春奈『あつ……はいつ、こちらこそよろしくお願い致します！』

春奈は緊張し、あわてながらあいさつをした。

水城『致します』って、ははっ、夏川って意外とおもしろいんだな』

??『廉！はやくしろよ！授業始まつちまうぞ？』

茶髪に少し猫っ毛の大きな瞳をし、ピアスを両耳につけ、少しチャラチャラしている男は

水城に叫ぶと、こっちに向かって走ってきた。

水城『悟！！悪い！ごめん、そろそろ俺行かねえと……、夏川またあとでな！』

水城は申し訳なさそうな顔した。

すると、もう一人の先輩も、ズボンのポケットに手をつ込みながら、ぺこりと会釈を行なった。

春奈『・・・・・・・・あれ？・・・・・・・・あの先輩・・・・・・・・確か・・・・・・・・』

どこかで見たことのある人だった。

悟『なあ、さっきのかわいい子、誰？もしかして・・・・・・・・お前の新しい彼女？』

悟はニヤニヤしながら、水城をからかうように言った。

水城『ちっ、ちげーよ！そんなんじゃないよ！』

水城は、少し照れながら否定した。

悟『あの子めっちゃ俺の好み』なあ、廉、今度あの子、紹介してくんない？いいだろ？

減るもんじゃないし、それにお前には『愛海』っていう女がいるんだろ？』

「お願い〜」と。両手を重ね合わせ、小動物のように根太照られた。

水城『愛海はただの幼なじみだよ・・・・・・・・』

水城は悟から視線を逸らし、つぶやいた。

悟 『クラスで有名だぜ？』『美男美女カップル』って』

悟は横目で水城を見ながら言った。

水城 『ただの噂だって言ってるんだろ？』

水城は大きなため息をした後、あきれ顔をした。

悟 『でも、春奈ちゃんもかわいいよな』』

悟は少し、デレデレしながら言った。

水城 『なんでおまえが夏川の名前知ってるんだよ！』

水城が疑問気に聞いた。

悟 『え？』『なんで』って・・・何、おまえやっぱ春奈ちゃんのこと

と好きなの？』

水城『ちっ、ちげーって言ってんだろ！』

水城は向きになりながら言い返した。

悟『冗談で言ったのに何、マジで顔赤くしてんの？（笑）』

水城『なっ！……違う！……俺はっ！……』

水城は顔を頬染めると、急に黙り込んだ。

悟『ってことは俺とおまえはライバルってことか、言っとくけど俺、マジだから』

水城『……言ってるバァーカ……（何怒ってんだ？俺まさか本当に夏川のことを）』

（１・再開 終わり）

1・再会（後書き）

春奈たちの恋はまだ始まったばかりなので、今後の春奈と廉との展開を書くのがすごく、

私としても楽しみです。（*^-^*）

みなさんも、ぜひ、春奈の恋を応援してください。

これから、どうぞ、『未来時計』をよろしくお願い致します。

作者：みゆりい より

2・嫉妬

2・【嫉妬】

水城『夏川！俺、ずっと前からお前のことが……』

??『……春奈!……春奈ってば!』

春奈『……亜紀?なあに?』

亜紀『んっ』

春奈『えっ?何?……!……』

岡田『春奈さん!体調でも悪いんですか?大丈夫なら前を向いていなさい!』

春奈『はい、すみませんでした。』

岡田『皆さんも、まだ一年生だからってだらだらしてはダメですよ!今日はこれで終わりにします。』

亜紀『岡田の前で寝ちゃだめって言ったじゃん!今度から気をつけなよ?』

春奈『はぁい、』

亜紀『ところで春奈!今週の日曜日、暇?合コンがあるんだけど、メ

ンバーが一人足りないのよ！ってことで春奈！お願いっ！

春奈『しょうがないな』

亜紀『本当？ありがとー春奈！大丈夫！水城先輩と安部先輩も行くからっ』

春奈『えっ！水城先輩達も来るの！？』

亜紀『もちろん！あと、奈菜と千春も来るから！いいチャンスなんだから

頑張んなさいよね！他のみんなも春奈のこと応援してるんだから！』

春奈『もちろん！』って、なんで千春たちがあたしの好きな人知ってんのよ！』

亜紀『へ？それもこれもみんな『春奈のため！』よ』

春奈『余計なお世話よ！・・・でも、いつもありがとう』

亜紀『・・・何か言った？』

春奈『うん、なんでもない！』

亜紀『あっ！大事なこと言い忘れてた！日曜日、覚悟しときなさいよ！春奈はその日二時間早くあたしん家きなさい！』

春奈『・・・なんで？』

亜紀『『なんで』って、それは来てからの楽しみっ♪』

春奈『何よそれ〜?』

合コン当日

悟『廉!大丈夫か?』

水城『ああ、少し考えごとをしていただけだ』

悟『ならいいけど……それより今日、春奈ちゃん来んのかな?』

水城『……さあな……来るんじゃない?』

悟『なんだよそれ、お前、今、適当に答えただろ?……俺、告ろうかな、春奈ちゃんに……』

水城『……別にまだいいんじゃない?夏川だってまだ、お前のこと知ねえわけだし』

悟『そうだな!まずは友達からだよな!(……でも俺はずっと前から知ってたんだけどなあ……きつと、春奈ちゃんだって……)(』

水城『……ああ?何か言ったか?』

悟『何でもねえよ』

春奈『ねえ、亜紀、やっぱこれ変じゃない？』

亜紀『何言ってるの！あんたもつと自分に自身持ちなさいよね！顔はかわいいんだからっ！』

春奈『顔は』って・・・なによそれ！他はかわいくないってこと！？』

亜紀『なによ、本当のことでしょ？あつ！ちよつと！今、動いちやだめ！』

春奈『痛つ・・・ったくも！亜紀、そこまでやってくんなくてもいいよ？ただの合コンなんだし・・・』

亜紀『ただの合コン』って・・・あんた合コン以外の何にやるのよ！』

春奈『え？例えば『デート』とか？』

亜紀『彼氏もないのにデートどころじゃないでしょ？そんなこと言ってるんなら早く水城先輩に告っちゃいなさいよ！デートはそれからよ？』

春奈『・・・無理だもん・・・』

亜紀『え？・・・無理って？』

春奈『だって・・・水城先輩、彼女いるんだよ！？』

亜紀『あの三組の『綾瀬愛海』って言う人？ただの噂話よ！それに水城先輩はモてるから噂が立つだけよっ！』

春奈『あたし・・・見ちゃったの、先輩がその人と一緒に帰ってる所』

亜紀『帰る路がたまたま同じだっただけでしょ？』

春奈『・・・でも・・・』

亜紀『そんなに気になるんなら直接聞いてみればいいじゃない！』

春奈『ええ～！言いづらいに決まってるじゃん！』

亜紀『ならいいんじゃない？あたし知～らない！』

春奈『分かったわよ！聞けばいいんでしょう？聞けば！』

亜紀『よろしい～はいっ！できあがりっ！』

春奈『わ～、かわい～！亜紀ありがと～！早く行こっ！』

二十分後

千春『も～！、亜紀たち遅お～い！もうみんな待ってるよ！』

亜紀『ごめ～ん！でもそれもこれもみ～んな・・・』

水城『篠崎！夏川は？・・・夏・・・川・・・？』

亜紀『よくぞ聞いてくれましたあ！さあ皆さん！

あちらをご覧ください♪春奈ちゃんのご登場でえゝす』

春奈『ごめんね、遅くなっちゃって・・・』

水城『・・・かわ・・・』

悟『かわいゝ！まじでかわいいよ春奈ちゃん！』

春奈『ありがと・・・』

水城『・・・』

カラオケボックス

奈菜『十八番、春野奈菜！歌いまゝす！』

亜紀『イエゝイ！待ってましたあ！！』

悟『春奈ちゃんはさ、誰か気になってる奴とかいるの？』

春奈『ええ！？いますけど・・・その・・・片思いなんです。
なんていうか憧れみたいな感じなんですけど・・・』

悟『・・・ふゝん、もしかしてそれって・・・』

春奈『？』

悟『いや、なんでもない♪それより今日は楽しくしよつぜ！』

春奈『はいっ！ところで先輩の名前って・・・』

悟『俺？俺の名前は『安部悟』『悟』ってよんで♪』

春奈『あれっ！？そういえば・・・悟先輩って、私と中学同じだったような・・・？』

悟『そうそう！俺も春奈ちゃんのこと初めて見たときから見たことある子だなんて思ってたんだよねっ！』

春奈『ああ！やっぱり どうりで見たことあると思った
でも、すみません、私、全然気づかなくて・・・でも、
先輩昔とだいぶイメージが変わってたから・・・』

悟『いいって、いいって！俺も分かんなかったもん！あまりにも
春奈ちゃんが

かわいくなってたから・・・』

春奈『もうっ！褒めてもなんにもでませんよオ？』

悟『本当だって！俺、んな器用な奴じゃないし・・・』

春奈『あははっ！（・・・やっぱり、先輩みたいな人をすきになっ
たほうがいいのか
な？・・・あたし・・・）』

悟 『…………』

春奈 『悟先輩、どうかしましたか？』

悟 『ん？なんでもない♪』

亜紀 『春奈！…………』

春奈 『あつ！…………あのつ！…………水城先輩は彼女いるんですか？』

水城 『…………いや、今まで一度もできたことないよ…………』

春奈 『（ほっ）でも以外ですね、先輩が付き合ったことないなんてファンの人達が聞いたらきつと驚きますよ？』

水城 『…………でも…………好きな奴ならいる…………』

春奈 『えっ？…………それって、やっぱり綾瀬とかいう人ですか？やっぱり付き合ってるんですか？』

水城 『…………（フイっ）…………』

悟 『…………春奈ちゃん、ちょっと話があるんだけどコイツ借りて

行っっていいかな？』

春奈 『…………はい…………』

水城 『なんだよ話って…………』

悟 『っ！・・・・・・・・てめえ！俺に気い使ってんじゃねえよ！見下してんのか？！ああ？』

水城 『っ・・・・・・・・』

悟 『なんとか言えよ！おいっ！自分に正直になれよ！お前！春奈ちゃんのこと』

本当は好きなんだろう！？』

水城 『俺がこんな思いを寄せてもあいつが・・・・・・・・』

悟 『『春奈ちゃんが困るだけ』とでも言いたいのか？』

水城 『あいつが好きな奴はお前だよ、きっと・・・・・・・・あいつ、中学のときから』

ずっとお前のこと見てた』

悟 『はあ！？何言っただよ！お前！春奈ちゃんはなあ、ずっとお前のこと』

見てたんだよ！多分、今も・・・・・・・・』

水城 『それでも俺には・・・・・・・・彼女を幸せにすることなんて出来ねえんだよ！・・・・・・・・』

悟 『おい！廉！（俺は知ってる、彼女がどれだけあいつのことを好きか・・・・・・・・なのに、どうしてあいつは彼女から逃げているんだ？』

なぜ、思いを伝えようとはしない？これじゃ、彼女があまりにもかわいそうだ。』

でも、俺はあいつよりもずっと前から彼女のことを知っていたのに……

好きだったのになのにどうして彼女は俺に振り向いてくれなかった？

もしかしたら彼女は俺と会わずっと前からあいつのことを……
」

悟 『春奈ちゃん！』

春奈 『あつ！先輩！探してたんですよ？水城先輩は戻ってきたけど悟先輩だけなかなか

帰ってこないかったから……！？』

悟 『……見てろよ……』

春奈 『先……輩……？』

悟 『俺だけを見てろよ……！……なんで……
廉なんだよ……俺を好きになれよ……っ！』

そのとき、私は、今何が起こっているのかよく分からなかった。でも、悟先輩が私を強く抱きしめてくれた感覚はまだ胸に残っている、

そのときの先輩の表情は、なんだかちよっぴり悲しくて、
今までにも見たことがない先輩だった。

このときの私は、まだ、自分自身の中で、
心が大きく揺れ始めているのに気づいていなかった。

（嫉妬
終わり）

3・揺れる心

3・揺れる心

あの合コンから一ヶ月がたった。あれ以来、私は悟先輩とは、一度も会っていない。でも、まだ今でもどうして悟先輩は、私にあんなことをしたのかまだよく分からなくて、水城先輩が誰のことを好きなのかもまだ分かっていない。そんな、なにも分からないまま夏休みが終わってしまった。

亜紀『ねえ、春奈』

春奈『・・・・・・・・』

22

亜紀『春奈ってば！・・・・・・・・もう！あんな、人の話聞いてんの？！あんな最近変よ？やっぱりあの合コンの日に先輩たちとなんかあったんでしょ！？』

もったいぶらないで教えなさいよね！』

春奈『えっ？あつ！ごめん・・・・・・・・で、何？』

亜紀『あんなねえ〜！』

春奈『・・・・・・・・』

亜紀『ふんっ！もういいわ！』

春奈『……ねえ、亜紀、悟先輩ってどう思う?』

亜紀『へ?悟先輩?水城先輩じゃないの??』

春奈『実はさあ、前に一度だけ好きだったことあるんだよね、

悟先輩のことっ!でもそのとき先輩には彼女がいるっていう噂があつて

告白もせずに終わっちゃったんだ……』

亜紀『……春奈?』

春奈『……よく分かんないだもん!水城先輩のことも、悟先輩のことも、自分自身のことも……っ!』

亜紀『……』

春奈『もう頭の中ごちゃごちゃ……自分で何言ってるのかも分かんない!もうっ!分け分かんない!』

亜紀『春奈!落ち着いて!』

春奈『あのね……亜紀、あたし、あの日、悟先輩に告られたの……』

そしたらあたし、なにが起こったのか全然分からなくて……でもね、

なんか変なの!心の中!前は水城先輩のことでいっぱいだったのに、

今は悟先輩のことばかり考えてるの……』

亜紀『春奈……もしかしてあんた、悟先輩のこと……』

春奈『・・・よく分かんない・・・けどあたし、悟先輩のこと嫌いじゃない・・・好きかもしれない・・・（だって、あ

んな先輩、始めてみたんだもん・・・）』

亜紀『春奈はさあ・・・どんなタイプの人が好きなんだっけ・・・』

春奈『・・・？・・・』

亜紀『あたしさあ、自分の好きなタイプの人を好きになることってあんまり無いと思うんだよね、うん、だって、ちょっとしたことで相手を好きになったりして、タイプでもない奴を好きになっちゃうことってあるじゃん？だからさっ！春奈のタイプでもなかった安部先輩をあなたが好きになったのも奇跡・・・運命だって・・・あたしはおもうよ・・・？』

春奈『・・・亜紀・・・そうだね、・・・なんかあたし、

少し勘違いしてたみたい・・・ありがとう、亜紀、あたし、・・・放課後輩に伝えてくるね・・・』

亜紀『あたしはあんたが決めたことには絶対に反対しないからね？あたしはいつだってあんたの見方なんだから！』

春奈『亜紀・・・ありがとう・・・あたしも絶対に亜紀の見方だよ！』

放課後、私は悟先輩を校舎の裏庭に呼び出した。

春奈 『悟先輩、あの、お話があるんですけど……』

悟 『……何?……』

春奈 『私っ!あの日からずっと考えていたんです!それで、あのっ』

悟 『っ……』

春奈 『私でよければ、付き合ってください!』

悟 『えっ?……ってことは……OKってこと?』

春奈 『私も、先輩のこと好きです!』

悟 『……え?まちで!?本当に俺でいいの?!』

春奈 『あたし二度は言いませんから!』

悟 『よっしゃゝあ!まちで夢じゃねえよな?これ!』

春奈 『ちよっと!ちゃんと人の話聞いてるんですか?!』

悟 『いや、まちでこうなるとは思ってなかったから、

嬉しくって、つい……(笑)』

春奈 『先輩って意外にかわいいところあるんだね♪』

悟 『でもなんで・・・っ』

春奈 『だ・か・らぁー！先輩のことが好きだからに
決まってるじゃないですか?!』

悟 『俺、ずっと・・・春奈ちゃんは廉のこと・・・』

春奈 『?』

悟 『いや、なんでもない・・・』

(揺れる心 終わり)

4・すれ違う二人

4・すれ違う二人

あれから私と悟先輩は、付き合うことになった。

奈菜『ええ〜！春奈ちゃんと悟先輩、付き合ってるの！？』

春奈『でも最近付き合いはじめたの♪』

千春『だって！前は水城先輩のことが好きだったのになんで？！
いつからそうなったの？！っていうか悟先輩も春奈のこと
好きだったんなって・・・』

亜紀『ね〜、信じらないでしょ〜？』

春奈『・・・はあっ！？』『信じらない』って・・・あんだこの
あいだ

『あたしはあんだのこと信じてる』『って言うてたくせにっ！』

亜紀『『信じてる』とは言っていないでしょ！？あたしは

『あんだの見方』って言ったの！』

春奈『同じようなことじゃない！』

千春『まあ、まあ、何がどうであれ、春奈がうまくいったんだから
いいじゃない！それより他の男子は落ち込むだろうね〜！』

笑

春奈がちがう男に捕られちゃったんだかさっ ♪

春奈『・・・・・・何でえ・・・・・・???』

奈菜『だって春奈ちゃん男子からすごく評判いいよ?』
『かわいい』
とか『美少女』だって!』

春奈『『かわいい』・・・・・・ってこのあたしが?!』

亜紀『あんた鈍感だから気づいていないだろうけど周りの男子は
みんなあんたに気があるんだからね!?』

春奈『ええ!嘘!冗談でしょ?!』

千春『まさか本当に気づいてなかったの?春奈?!』

春奈『・・・・・・全っ然っ・・・・・・気づかなかった・・・・・・;
ってか、んなこと考えたことすらなかった・・・・・・。』

奈菜『えっ!嘘!気づいてるんだと思ってた・・・・。』

春奈『気づいてたらいろんな人に気をつかったりしてるよ!』

亜紀『でも普通は気づくよ、だってあの男子たちの顔、見てなよ!
まぢで落ち込んでるからさっ ♪

千春『っていうかクラス全体が暗くない?』

亜紀『それはそうよ!だって悟先輩も女子から人気があるんだから!』

運動はできるし、頭はいいし、優しいし、それにかっこいいし！」

奈菜「えっ？もしかしてあっちゃんも悟先輩のこと好きなの？？」

亜紀「『好き』っていうか・・・かつこいって思ってるだけっ」
でも水城先輩もいいし、三年の翔太先輩もいいなあっ」

千春「あんたは一生、男できないわね・・・」

亜紀「ちよつと千春それってどういう意味よ！」

千春「でもでもっ！あんなに好きだったのに水城先輩はいいの？？」

春奈「えっ？・・・」

奈菜「そっだよ！あっちゃんはともかく、

春奈ちゃんは春奈ちゃん自身でいいんだよ？？」

春奈「何言ってるのよ二人とも、あたしは先輩と一緒になりたくて付き合っただんだよ？だからあたし、全然後悔してないよ？それに・・・」

千春「・・・？・・・」

春奈「水城先輩には好きな人がいるから・・・」

奈菜「春奈ちゃん？」

春奈「えっ？あっ！なんでもない！えへっ・・・」

亜紀『・・・・・・・・・・』

千春『あつ！水城先輩！』

水城『・・・・・・・・・・はよ・・・・・・・・・・』

春奈『水城先輩・・・・・・・・あの、私、悟先輩と付き合うことになったんです。』

水城『・・・・・・・・よかつたじゃん！おまえらお似合いだったもんな！』

愛海『れ〜ん！早くしてよ〜！』

春奈『・・・・・・・・先輩も、彼女できたんですか？』

水城『（・・・・・・・・これで・・・・・・・・よかつたんだよな・・・・・・・・）』

春奈『？』

水城『あいつのことよろしくな、あいつ、

ああみえていい奴だからさ、それじゃあな』

愛海『廉、だあれえ〜あの子〜？』

水城『お前には関係ねえよ・・・・・・・・・・』

愛海『ふ〜ん、ならいいけどっ！』

その日の先輩はなんだかとても切なく、わたしと先輩との中には私たちにしか見えない大きな割れ目ができ、先輩と話す数も減っていき、

悟先輩との仲がとても深まっていった。

（すれ違う二人 終わり）

5・一輪の花

5・一輪の花

春奈『最近、水城先輩と会ってないな・・・』

悟『どうかした？』

春奈『あつ、ううん、なんでもないよ♪』

お腹空いちゃったから購買でパン買ってくるね』

悟『行つてらっしゃい♪』

春奈『とは言え、このまま水城先輩と話さないのも失礼だし

・・・ううん・・・きやつ！』

??『気をつけろよな・・・』

春奈『ごつごつごめんなさいっ！・・・あつ！水城先輩・・・』

水城『夏川・・・っ危ないっ！』

春奈『え？』

（ガシャン）外からボールが飛んできて窓ガラスが割れた

水城『つつ・・・』

春奈『先……輩？』

（窓ガラスが割れたのを水城先輩が助けてくれて……先輩の顔が目の前にあって……あれっ？どうしてだろ？

体が……熱い……熱くて、心臓が激しく鳴っている、

死にそうぐらい……これは……何？）』

水城『夏川、大丈夫か？……』

春奈『ここ……は？』

水城『保健室だ、ガラスが割れたときにお前、気絶して、連れてきたんだ

少し寝てれば平気だってさ、よかったな……』

春奈『（ダッ）』

春奈はあわてて保健室を出ようとした。

水城『おい、待てよ！まだ安静にしてなきゃダメだって！』

春奈『先輩、もう大丈夫です……ですからあの……手を離してくださいっ！』

水城『……俺のこと嫌い……か？』

春奈『違うんです。ただ、その……先輩といるとなんだか体が熱くなって……』

もうよく分からないんですっ自分のことっ！』

水城『っ……………』

春奈『だから……その……！？』

水城『もつと……もつと分からなくなってくれたらいいのに……』

春奈『え？』

水城『（……………可憐に野に咲く小さな一輪の花のようにどんなにちっぽけな花でも、

俺にとつてお前はどんなにきれいな花よりも一番に輝く、一輪の花……………）』

水城『今日したこと、俺、絶っつ対に後悔してねえから！だから、次は手加減しねえでお前を悟からさらって行くから………またな……………春奈……………』

廊下に悟がいた。

水城『……………悟……………俺……………』

悟『やってくれんじゃん、お前がその気なら俺だつて手加減しねえから……廉……！春奈は絶対に誰にも渡さない！』

水城『っ……………』

（そのとき強く抱きしめられた後、先輩の顔が目の前に来て一瞬にして私の唇を簡単に奪って行った．．．．）

春奈『（ねえ．．．先輩どうして？だって先輩には『綾瀬』っていう

彼女がいるのにどうしてあたしなんかにキスなんかしたの？．．．．

水城先輩のこと．．．．分らないよう．．．．）』

春奈は静かに泣いた。

悟『つ．．．．．』

??『夏川春奈．．．ねえ、まあ、顔はいいけどあたし程可愛くはない

と思うけど悟も、廉もどうしてあの子なんかにに夢中なのかしら．．．．！

！
気に食わないわ！あんな子にあたしが負けるなんて．．．．

絶対に廉だけはある子なんかに渡さないから．．．．！
誰にも渡すもんですか．．．．！』

（一輪の花 終わり）

6・復習

6・復習

私はこの日、初めて『綾瀬愛海』に会った、彼女は水城先輩と悟の幼馴染で、水城先輩のことを昔から好きだったらしい、中学生頃から、先輩に好きな人がいるという噂話がたち、綾瀬愛海は先輩の好きな人に嫉妬し、あらゆる先輩のことを好きな人を洗いざらい吐かせたらしい。それで、私が『水城先輩のことが好き』という噂をかきつけて私の元へやって来た。

愛海『あなた、廉のこと好きなの？』

春奈『綾瀬先輩知っていますよね？私と安部先輩が付き合ってることぐらい、

どうして私のところに来たんですか……？』

愛海『そうよ、知っているわ……だから少し安心していたの……でも、違った……』

春奈『……何がですか？』

愛海『あなた、本当はまだ、廉のこと好きなんじゃないの？！』

春奈『！？』

愛海『誤魔化しても無駄よ！あたしはちゃんとこの目で見たんだか

ら！

あんたと廉がキスしてる所をね！』

春奈『あつ！あれは……………』

愛海『とぼけないで！もう、いい加減に白状したら？』

春奈『……………っ痛った……………』

愛海『あんた、廉のこと狙ってんでしょ……………！？』

春奈『違います！わたし、そんなつもりじゃ……………！』

愛海『っ！いい加減にしなさいよ！』

（パーン）愛海が春奈を打とうとした。

春奈『っ……………！……………』

愛海『……………っ！……………悟！？やだっ！ごめんなさいっ、わたし、そんなつもりじゃ……………』

悟『もう、やめろよ、こんなこと……………それに、俺に誤る前に他に誤んなきゃいけねえ奴がいるだろ……………』

愛海『っ……………なんでよ……………なんで悟まであたしを見捨てるの？』

そこまでこの子のこと好きなの？』

悟 『愛海っ！やめろ！』

愛海 『みんないつも一緒にいたじゃないっ！なのに・・・』

悟 『もう、みんな昔とは違うんだよ・・・廉も、俺にも愛する人がいて、

だから、きっとお前にも・・・』

愛海 『やめてっ！そんなの分かってる！分かってるけど、あたしはただ、

悟達とずっと一緒にいたいだけっ！』

悟 『愛海・・・俺、知ってたよ、お前が廉のことずっと好きだったってこと、

俺も昔はお前に惚れてたよ・・・それで俺は愛海に好かれて
いる廉がすごく

憎かったんだ・・・廉は、俺のほしいものをすべても
っていたから・・・

すべてがあいつに奪われているような気がして・・・そ
んなときに、

俺に優しく手を差し伸べてくれたのが春奈だった・・・こ
んな汚らしい俺が

この子のそばなんかについて彼女は迷惑では無いだろうかと思
っていた、けど、

彼女はそんなことも思いはせず、俺の心をやさしさで溶かし
てくれた・・・』

春奈 『悟先輩？』

悟 『ありがとう、春奈お前が今、ここにいるおかげで今、俺はここにいる……』

愛海 『悟……』

悟 『だからもう、俺は昔に戻ることはできない、今は、本当に大切にしたい、守ってあげたい人がいるから』

愛海 『……春奈さん、あなたがもし、その……悟のことだけを本当に

愛しているのなら……』

春奈 『今さらそんなこと聞かないでください、そんなこと、当たり前じゃないですか！』

愛海 『……本当にあたしとは全然違うわ……』

あたしには絶対に真似できないもの、あなたはあたしには、無いものをたくさんもっているんだもの、廉も悟も惚れるはずよね……』

春奈 『えっ？今なんて……』

愛海 『ふふ、なんでも無いわ、さっきはごめんなさい、なんだかあたし、

あなたのこと勘違いしていたみたい次に会うときには私には彼氏つきよ！』

春奈 『はい、そのときは、愛海さんもお幸せに！』

愛海 『ありがとう、春奈、次に会う時を楽しみにしているわ、

あなたがもつと幸せになっているように・・・」

こうして私達は本格的に悟先輩と付き合い始めた愛海さんは、その後、また、高校を移り、新しい人ができたという知らせが届いた、

自分のことでもないのに、なんだかとても微笑ましかった。

（復習 終わり）

7・本当に大切な人

7・本当に大切な人

水城先輩とのがまだ気になっていて、なんか本当に自分の本当の気持ちが変わらなくなってしまっていた……そう悩んでいるうちに私は二年生を迎え、春が来てしまった。

春奈『みつ水城……先輩！』

水城『夏川！？久しぶりだな！お前も、もう先輩か……なんか、一年あつというまだったな！』

春奈『水城先輩……もう、三年生なんですよね……来年には悟も、先輩もこの学校からいなくなっちゃうんですよね……』

あれっ！？何言ってるんだろあたしっ、まだ先の話なのに……
『……』

水城『何言ってるんだよ！まだ四月だぞ！？そんなの考えんのまだ早いと思うぜ？』

春奈『そうですよね！……でも、卒業しちゃったらもう本当に会えなくなっちゃうんですよ！？』

水城『……なぐんだ、そんなことかっ！大丈夫だって！
離れていても悟はずっとお前を見てる！それに、

会いたくなったらいつでも会いに行けばいい……」

春奈『違うんです！それだけじゃないんです！私がずっと気にしていたのは、

水城先輩です！どうしてそう平然としていられるんですか！？
もう、……本当に会えなくなってしまうかもしれないんですよ！？

……どうして……あの時、あたしにキスなんかしたんですか……？

あたし、悟先輩と付き合ってるんですよ！？なのに……あなた……っ……！』

水城『違う！俺は……っ！』

春奈『あたしの心をもう、踏みいじらないでください！

……っ！？何ん……で……』

（バツ！）廉が春奈にキスをした。

春奈『んっ！』

水城『俺は……好きでもない女に、キスなんかしない！

ずっと前からお前のこと……』

春奈『やめてっ！聞きたくない！……何で……何で今更そんなこと言っんですか！？　そんなこと聞いたら……あたし……悟先輩のこと裏切ることになるんですよ！？　先輩の

こと……好きになっちゃうじゃないですか……!』

(……あたし……何言ってるんだろ……何でだろ……何で涙がでるの?)

悟先輩のこと本当に好きなら、別に迷うことも、傷つくこともないはずなのに

……あたし……本当に最低だっ!……悟のこと……裏切った……)

水城『もう、悟が春奈を好きでも迷わない!……俺は……春奈が好きだ!』

春奈『あたしも……ずっと……ずっと先輩のことが好きでした……』

でも、あたし……悟のことが好きなんですっ!悟を……失いたくないんす……! 水城先輩……ごめんなさいっ!本当に……せつかく……

せつかく好きになってくれたのにっ!あんなに優しくしてくれたのに……

でも、今は悟が一番大切にしたいんですっ……!

(ここで先輩に好きって言ったら、悟との仲が崩れちゃう……)

水城『……なんでお前がが誤んだよ……お前は何一つ悪いことなんてしてねえんだから、別に誤ることなんてねえよ……

・悟はお前のこといつも考えてる……!

あいつは……お前が傷つかないように、笑顔でいられるように、自分の幸せよりも、お前の幸せを願っているそうゆう奴なんだ……だから、春奈をきつと幸せにしてくれるはずだぜ!』

春奈『私の・・・幸せ・・・』

水城『じゃあ、またな！春奈！』

すっ（廉が春奈の隣を通り過ぎた）

水城『絶対に幸せになれよ！！』

春奈『っ・・・・・・・・（ズキっ！！）』

このとき思った。私の幸せは何なんだろう・・・ホントに私は、悟ことが好きなの？

水城先輩は、笑って私を許してくれた・・・その時、先輩の笑顔の裏には、少し、

切なさも感じた・・・でも、先輩も、私のことを考えてくれる、優しい人だと私は思う・・・だって・・・そうでなきゃ、こんなこと言えないよ・・・・・・・・

でも・・・・・・・・やっぱり・・・・・・・・なんか、心の中がモヤモヤしてる・・・・・・・・なんで・・・・・・・・

あんなこと言っただろう・・・なんで、胸がこんなにも苦しいんだろ・・・・・・・・

やっぱり、あたしはまだ、水城先輩のことが・・・・・・・・好き？？

（本当に大切な人　　終わり）

8・初デート(1)

8・初デート(1)

あれから、私の先輩への気持ちを少し引きずっていた。

もしかしたら・・・本当は、悟じゃなくて水城先輩を好きなんではないかという

自分の心の不安が、なにより私を悩ませた。だって、もし、本当にそうなら、

悟に悪いもん・・・まるで、あたしが悟を弄んだみたいで、こんなこと

確信した訳じゃないけど、言ったら、悟は傷つくよね・・・悟は・・・

ずっとあたしを信じてくれてたんだもん。悟のためにもはつきりしなきゃ・・・！

これは、先週の日曜日のことだった

(トウルルル)

春奈『はい、春奈です・・・あっ！悟・・・？どうしたの！？こんな時間に？』

悟『えゝ、あゝ、うん、あれだよほらあれ！』

春奈 『・・・？あれって何・・・？』

悟 『だからさあ、なんてゆーか・・・』

春奈 『もうっ！早くしてよ！髪、乾かさなきゃいけないんだから！』

悟 『分かったって！すぐ言うからそんなに怒んなよ、あのさあ、明日、

祝日で休みじゃん！？春奈その日、なんか予定ある？』

春奈 『明日あ？うーん、多分大丈夫だと思うけど・・・でもなんで？』

悟 『まだ！？じゃあさ、明日どっか遊びにいかねえ？俺たち、付き合っ
て結構たつけど、

どこにも遊びに行ったことないだろ？』

春奈 『うん！絶対行く！初記念日だね！』

悟 『はあ？何の？』

春奈 『だからあ、初デート記念日』の！』

悟 『いちいちそんな記念日ばっか付けてたらきりがねえよ！

俺、バカだからそんなに覚えらんないし』

春奈 『じゃあ、あたしたちが付き合い始めたのはいつ？』

悟 『なんでそんなこと聞くんだよ！』

春奈『いいから早く答えてよ!』

悟『ええ〜つと……六月の……』

春奈『はい、タイムオーバー! 正解わあ、五月五日でした♪』

悟『んで? なんでんなこと聞いたの?』

春奈『だつてつて……その日はあたしの誕生日だよ!?』

悟『うつそ! まちで!? 俺、まだ、何も準備してねえ! まちでくめんつ!』

全然気づかなかった! ……あつ! 俺、いいこと思いついちゃった♪ (笑)

明日、春奈が行きたいとどこでも連れてつてやるよ! だから、

明日は全部俺のおごりでいいよ!』

春奈『ええ〜、なんか悪いよあ〜』

悟『いいっていいって! 誕生日のこと忘れてた侘びだつて!』

春奈『……うん分かったあ〜、明日、楽しみにしてるね♪』

悟『おうよ! んじゃあ、明日な! 午前九時にS駅に待ち合わせな! 遅刻すんなよ!』

春奈『うん! じゃあ明日ね!』

・ (こんな中途半端な気持ちで悟デートしてもいいのかな……

あたし。ホント最低だね……!!……ごめんね……
・悟………)

亜紀『はるな』

春奈『亜紀……!? えっ!? なんで? それに奈菜と千春まで!』

奈菜『あははははっ、あれえ……? 春奈だあ……いやあ……偶然、偶然
!』

千春『ごめんね、春奈、あたしは止めといたんだけど、あいつらが
きかなくて………』

春奈『あはははは………』

奈菜『大丈夫だよあ……、こちらは絶……つ対に邪魔しないからあ! 気
にしないでね』

千春『もう、二人のデートを邪魔しちゃってるでしょ!?』

奈菜『あっ! そっかあ……! うちらがいたらいちゃつけなくなっちゃ
うよねえ!』

ごめんね……ラブラブな仲を邪魔しちゃって! それじゃあご
ゆっくり……』

亜紀『春奈っ』

春奈『……何?』

亜紀『がんばってね! うちら、見守ってるから!』

春奈『……………ついてこないでよね!』

亜紀『もちろん♪そんなことするはずないじゃん!』

春奈『（ヤバイっ! まぢに悟固まってる!）んじゃあ、うちらも行こっか!』

（すっ）悟が春奈に手を差しだした

春奈『えっ!?!……………これって……………』

悟『早くしろよ! 俺が恥ずかしいだろ!?!』

春奈『うんっ!』

（ねえ、……………悟、あたし、悟を好きになって、本当に良かったと思ってるよ）

悟は、私の手を優しく握ってくれた、その時の悟の表情が、顔を真っ赤にして、照れていて少しかわいくて苦笑してしまった。このとき、改めて確信したことがあった。

『あたしは……………悟が好き……………あたしの好きな人は水城先輩じゃない……………』

悟じゃなきゃ、ダメなんだ……………』

(初デート1 終わり)

9・初デート(2)

9・初デート(2)

悟 『春奈！どこ行きたい？』

春奈 『そつだなあゝ・・・じゃあ、映画！』

悟 『おっしゃ！待ってましたゝ！』

春奈 『何で？』

悟 『映画といたら、ホラーっしょ！』

春奈 『ええゝ！？普通は恋愛系じゃないの！？』

悟 『そうかあ？ホラーのほうがり上がんじゃんっ！』

春奈 『はいはい、（あたし、ホラーダメなのに！）』

悟 『よしっ！決まり！』死者のハラワタ『学生二人で！』

春奈 『（あからさまにヤバそうな名前じゃん！）』

悟 『春奈っ！』

春奈 『へっ？何？』

悟 『少し顔色、悪くないかあ？もうすぐ映画始まるんだから急ごうぜ！』

春奈 『うつ、うん・・・（そりゃ、顔色悪くなるさ、『使者のハラワタ』

なんて見たくないしいゝ！（泣）

（上映終了後）

春奈 『うええゝゝ！』

悟 『んゝ！面白かったな！お前、本当に大丈夫かあ？』

春奈 『まだ、あの時のシーンが頭の中に残ってて気持ち悪い・・・』

悟 『『あのときのシーン』？・・・ああゝ！お前が気絶しそうになった、

スケルトン（主人公）が死者と戦つてるときの場面か！
そんなに衝撃的だったかあゝ？』

春奈 『『ハラワタ』とか『血しぶき』とかまぢ怖かったし！』

悟 『まあ、あんなもんフィクションなんだから気にすることねえよ！』

春奈 『そうゆう問題じゃないよっ！』

悟 『あはははっ！んじゃあ、気を取り直して次、行くか！次はど

「こ行きたい？」

春奈「うーん、その前にお昼食べよ！あたし、お腹空いてきちゃった！」

悟「まだ、十時半だぞ！？お前、食い意地はってるな！」

春奈「何よ！別にいいじゃない！お腹すいたんだから！」

悟「はいはい、春奈お嬢様は本当にわがままですねえ」

春奈「何か文句でもあるわけ！？」

悟「いいえ！なんでも♪よしっ！行くか！」

（ファミレス）

悟「何食う？俺のおごりだからなんでもいいよ」

春奈「ありがと！でも、お昼ぐらいは自分で払うよ？」

映画代とかいろいろとだしてもらっちゃったし♪」

悟「いいからいいから！大した額じゃねえし！」

春奈「うーん、じゃあ、オムレツの特別セットと苺クリームデリシヤスパフェ！」

悟「お前、・・・本当にそんなに食えるの？」

春奈『大丈夫！さっき全部吐いちゃったから、余計にお腹減っちゃ
ってるんだ』

悟『ふん、ならいいけど・・・』

（レディが『吐いた』とか言つなよなあ・・・・・・・・（汗）&

（笑）』

（食後）

春奈『うん、おいしかったあー！』

悟『本当に全部完食するとは思わなかったよ・・・・・・・・』

春奈『えへへっ』

悟『次はそうだなあ、運動がてらにバッティングセンターにでも
行くかつ！』

春奈『ええー！？あたし絶対に打てないよ？ゲーセンにしようよ！』

悟『ちえー！よしっ！じゃあゲーセンにするか！』

春奈『ちえー』って何よ！』

悟『まっ！細かいことは気にすんなって！行くぞー！』

春奈『待ってよー！』

このあとゲーセンにいつて、めっちゃ遊んだ！悟も以外にゲームがうまくて、

ぬいぐるみをたくさんGETした。悟のことが少しずつ分かってきて、なんか、

すごく嬉しい。ねえ？悟は気づいてたあ？

あたしは、悟と一緒にいると、いつも胸がドキドキしてるんだよ？？
そんな時間が私は好きで、すごく楽しいし、なにより、悟と一緒に居られることが

すごく嬉しいんだよ？？？悟はどう思っていますか？？？

（初デート（2） 終わり）

10・初デートの締め括り

10・初デートの締め括り

今日は、すっごく楽しかった！でも、その後に、すっごい嬉しいサプライズがあった。

春奈『今日は、すっごく楽しかったよ！ありがとう！』

悟『喜ぶのはまだ早いぜ！春奈！誕生日おめでとう！』

悟は指輪を差し出した。

春奈『これ本当に貰っちゃっていいの！？』

指輪のプレゼントに私は凄くびっくりした。

悟『おそろい♪ちゃんと右手の薬指につけるよな！』

実は、前から渡そうと思ってた物なんだけど、なかなか渡せなくて……

んで、誕生日プレゼントと一緒にプレゼントしようかなって思ってた……

春奈『わあ！ありがとう！すっごく嬉しい！』

悟『俺が付けてやるよ、貸して』

春奈『えっ？うん……（なんだか照れくさくて顔が真っ赤にな

っちゃう。

なんか、さっきまでの悟とは、なんか違って、大人びいて見えるんだもん……)

悟 『それと、もう一つのプレゼント!』

(すっ) 悟は私に優しくキスをした。

春奈 『……悟……』

悟 『俺は誰よりも春奈を愛してる……これからも、ずっと永遠に春奈を愛し続ける』

春奈 『じゃあ、ずっと……ずっと私と永遠にいてくれますか?』

悟 『いつも姫のお傍に……姫とともに、歩んでいきます』

春奈 『悟?……』

悟 『何??』

すっ……(春奈が悟にキスをして小さくささやいた)

春奈 『大好きだよ……』

悟 『(かぁ……)……なんか、いつも思っても言えない

こと

直で言われると照れるな．．．．」

春奈『（クスッ）悟、真っ赤になっちゃて。か〜わい〜（笑）』

悟『なっ！！からかうなよっ．．．．！』

春奈『だってえ〜、ホントのことだもんっ♪．．．．』

もう一度悟が春奈にキスをした。

悟『俺をからかった仕返しっ♪．．．．誰よりもお前を愛してる．

．．．．』

春奈『あたしもだよ．．．．悟．．．．』

（私達は、永遠の愛を誓った．．．．このときはこれからずっと一緒にいられると信じていた．．．．なのに．．．．ねえ．．．．悟．．．．永遠に愛し続けるって．．．．いつも一緒にいてくれるって誓ったじゃないっ！．．．．どうしてこうなっちゃったの？ 悟．．．．．）

（初デートの締めくくり 終わり）

11・永遠の誓い

11・永遠の誓い

あれから三ヶ月が過ぎ、夏がきた。そして・・・私達は・・・別れた・・・

悟 『俺、もう、お前に愛想尽きたから、別れようぜ』

春奈 『えっ！？なんで！？あたし、なんか悟の気に障るようなことした！？』

悟 『っ・・・！・・・お前の相手すんのが嫌になったんだよ！もう、俺に関わるな・・・！じゃあな・・・』

春奈 『待つてよ！悟！あの時誓ったじゃない！永遠に愛し続けるって！』

・・・
いつも一緒にいるって！誓ったじゃない！なのになんで！？・

私のこと・・・遊びだったの？・他に・・・好きな人ができたの？・・・』

悟 『お前のそうゆうところが嫌いなんだよ！いちいちしつけし・

・・・
うっとうしいんだよ！』

春奈 『まっ・・・待つて！悟！それでも私は悟のこと・・・』

悟 『しつけないって言うてんだろ！とつとと失せる！

二度とその面俺の前に見せんな！……もう、俺達終わりだから、

じゃあな……あつ！これ、もういらねえからやるよっ
っ

（ビシッ）悟の投げた指輪が私の指先に当たった

春奈 『痛っ！待って！悟！あたし、信じてるから！

明日、いつもどおりにこの場所に悟のこと待ってるから！』

悟 『………』

次の日、悟はいつまで待っていて、来なかったそれから、私は、悟に会うことはなく、数ヶ月後、友人から家の事情により、転校したということ聞いた。何故か、たまにすれ違うことがあり、その度に毎回『ああ……私達、もう、他人なんだな……』と思った……本っ当……なんでこうなっちゃったんだろう……もしかしたら、始めから悟は、遊びだったのかな……もう……私は振り向かないよ……悟のこと思っのはもうやめる。

悟 『………（何でそんな目で見るんだよ………やめろよ………）

お前のしつこいとこ……大好きだよ……一途で、いつも頑張ってる

お前が、誰よりも愛しい・・・ごめんな・・・春奈・・・
・ありがとう・・・」

（永遠の誓い 終わり）

12・新たな恋

12・新たな恋

あの出来事から数カ月後、私は、水城先輩の優しさに惹かれていった……。そして、放課後、私は裏庭に先輩を呼び出した。

春奈「水城先輩！……あのう……」

水城「ん？どうした夏川？」

春奈「私、水城先輩のことが好きです！」

水城「えっ！？変な冗談はよせよ……。お前にはちゃんとした……。『

春奈「……。私じゃダメですか？……。そうですよね！先輩は力ツコいいし、

優しいから私よりも可愛い子がたくさんいるし……。！』

水城「えっ？待てよ！どうなってんだ！？だってお前には悟がいるだろ！？」

春奈「……。悟先輩とは数ヶ月前に別れたんです……。『

水城「えっ！？何でだよ！？あんなに仲良かったのに、どうして別れたんだよ！？」

春奈『私も分からないんです……、突然……別れようって言われて……』

振られちゃいました……』

水城『悟はそんな軽い奴じゃない！いつでも、お前のこと一番に思っ
つて……』

だから……別にお前のこと……夏川……！？』

春奈『……痛い……っ！……心が痛いです……っ！』

水城『……俺が、もし……、悟の代わりになれるなら……』

俺はお前を守るよ……』

春奈『私は……悟先輩の代わりなんかじゃなくて、愛しい人と
して……』

先輩を見ていていいですかっ……？』

水城『お前がそう願うなら俺はそれでいい……ずっと……こ
んな日を』

夢見ていたんだ、夏川が……春奈が、俺だけを見てく
れる日を……』

春奈『卑怯でごめんなさいっ！でも……水城先輩が好きなの
！……』

先輩だけを見ていたい……っ！』

（がさっ）

春奈『・・・！？・・・さと・・・る・・・？どうしてここに・・・』

悟『あっ・・・悪りい、ちょっと用があつて寄っただけだったんだけど・・・』

邪魔したな・・・『

水城『お前！何でっ！』

悟『・・・じゃあな！廉！・・・良かったじゃん！』

（すっ）悟は私の隣を避けるように通り過ぎていった

水城『おいっ！待てよ！悟！夏川ごめんっ！すぐに戻るから！』

水城先輩は、悟のことを追いかけて行ってしまった・・・
悟とすれ違う時、悟の瞳はとても冷たくて、まるで別人だった・・・

でも、なぜか少し、寂しそうな表情をしていたようなきがした・・・

私は悟の大きな背中を呆然としてずっと見つめていた。

（新たな恋 終わり）

13・悟の真実

13・悟の真実

あれから一時間ぐらい経って水城先輩は戻ってきた、なぜか、申し訳なさそうな表情と笑みを浮かばせていてきつと何かあったんだろうと思っただけ、先輩の顔を見ると・・・聞きたくても聞けなかった

水城『悟・・・何でお前、夏川と別れたんだ？』

悟『何言っただよ！お前、春奈のこと好きなんだろう？お前には好都合じゃん！』

なのに何でむきになってんだよ・・・あつ！もう、付き合っただけ！』

（ガッ）水城が悟を殴った

悟『痛っつてえ・・・』

水城『お前が誰を好きになろうが俺には関係ない！・・・けど、本当に嫌いにもなっていないのにここまで距離を置くのはおかしくないか！？』

それに、まだ、夏川だってお前のこと好きだっていうのにつ・・・！！』

悟『っ！言ってくれるじゃねえか．．．．．だったらなんだって言うんだよ！』

俺がどうしようと俺の勝手だろ！』

（ガッ） 悟が水城を殴った

水城『っ．．．．！一人で抱え込むなよ！一体なにがあつたんだよ！理由もなくお前が春奈を手放すはずがないだろ！？』

悟『．．．．．忘れたくねえんだよ．．．．．！春奈のこと．．．．．嫌いになろうとどんだけ努力しても嫌いになれねえんだよ．．

．
好きで好きで仕方が無いんだ．．．．．忘れられねえんだよ！あいつのこと．．．．．

あいつだけは．．．．．春奈だけは忘れたくないんだよ．．．．．っ！』

水城『．．．．．どういうことだ．．．．．？』

悟『脳に癌が見つかって、どんどん記憶がなくなっちまうんだ．．．．．だから、あいつのことも．．．．．』

水城『記憶が消えてしまうのならまた作っていけばいいじゃないか！なのに．．．．．なんで．．．．．っ！』

悟『俺の寿命さあ．．．．．もう少ねえんだ．．．．．あと、一年．．．．．いや、

もつか分からねえ．．．っ！いつ死ぬか分かんねえんだ．．
・癌が転移して、

進行してけば．．．俺は、もう．．．．．」

水城『何でもっと早く言ってくれなかったんだ！』

悟『言ったら！．．．春奈に迷惑がかかるだろ？お前にも．．
』

水城『春奈に．．．伝えなくていいのか．．．？』

悟『．．．．．』

水城『忘れてしまわないうちに、あいつに最後まで一緒にいてやれないのか！？』

悟『その後、俺が死んだ後はどうする？誰が春奈を守ってやんだよ．．．．．

誰が春奈の傍に居てくれる．．．俺なんかを選んじまったから！！

お前を選らんでいれば、春奈は幸せで居られたのに．．．．
っ！』

水城『なんでお前、勝手に春奈の気持ち決めてんだよ．．．．
春奈はお前じゃなきゃダメなんだよ！俺なんかじゃ、
お前の代わりになんかなれねえんだよ！．．．．このまま．
．．．．

何も知らずに終わったら、春奈は、余計に不幸になる！お前
と最後まで

愛し合えなかったことをずっと後悔し続ける．．．．』

悟 『それでも俺は……何もしてやることはできない……だからお前のほうが』

ずっと春奈を幸せにしてやれる……っ！』

水城 『お前、それ、本気で言ってるのか？……俺がお前の変わりになれると』

思ってるのか……？！春奈は……お前じゃなきゃ駄目なんだよ！

お前じゃなきゃ春奈を幸せにできねえんだよ！……』

（ガッツ！）水城が壁に悟を押し付けた。

悟 『けほっ！……廉……ほんのわずかな時間しかないけど……なを……春奈を幸せにできるかな……？』

水城 『ああ……そのときの幸せな時間が、お前の記憶から亡くなっても、』

春奈の中では、永遠に残るさ……だから……』

悟 『永遠に……かぁ……そういや約束したんだっけ……永遠に愛し続ける』

って……約束、守らなきゃな……』

水城 『……約束……破んなよ……！』

悟 『守って見せるさ……！……永遠に……』

悟 『・・・廉・・・お前にお願いがあんだけど・・・
聞いてくれるか?』

水城 『・・・?・・・』

（悟の真実 終わり）

14・初恋の人

14・初恋の人

あの出来事から数日後、水城先輩から悟のことを聞かされた

春奈『それじゃあ・・・あたしと別れたのも・・・すべて・・・』

水城『ああ』

春奈『でも何で、あたしに言ってくれなかったんだろ・・・そんなにあたしって、

頼りにならないのかな・・・？』

水城『そんなんじゃないよ・・・悟は、お前に、余計な心配をかけたなくて、

自分のことを忘れさえすれば、春奈は幸せになれる・・・
自分がどんなに傷ついてても、春奈が自分を忘れて他の奴と幸せになれば

それでいいって思ったんだ・・・』

春奈『本つつ当にバカなんだから！そんな気を使われても全然嬉しくない

んだからあ・・・！あたしはあ・・・っ！・・・あたしはっ・・・

悟とじゃなきゃ、絶対に幸せになれないよっ！

(・・・涙がとまんない・・・止まるどころか、どんどん出

てくる．．．．悲しいから　　涙が出たんじゃないよ？．．．嬉
しいの．．．．悟が．．．．ずっと私のこと思ってたこ
とがすごく嬉しかったの．．．．でも、．．．．やっぱり．．．．
悟と、

ずっと永遠に二人でいられないっていうのが辛いよ．．．．
）』

水城『．．．．早く、悟のところに行けっ！春奈！あいつはいつ
もの場所で待ってる』

春奈『いつもの場所』？．．．．』

水城『お前なら分かるだろ？悟がいつもいそうな場所！』

春奈『．．．．うんっ！ありがとう．．．．！辛いときにいつも
傍にいてくれて．．．

大好きだったよ．．．．ずっと前から．．．．でも、今はもう
違う．．．．

本当に大切にしたい人がいるから．．．．悟を．．．．一番
に大切にしたいの．．．．だから．．．．．ごめんなさい．．
．．先輩のこと好きって言ったクセに．．．．

今更ごめんなさいだなんて．．．．あたしって、最低な女
です．．．．

先輩の気持ち、振り回して．．．．っ先輩を傷つけておいて．
．．．．

自分だけ幸せになろうだなんて．．．．』

水城『何言ってたよ．．．．！俺は、お前と一緒に過ごせただけ
で、

凄く幸せだった．．．．．！それに、俺は、お前が誰を

好きになろうと、

春奈が幸せで居てくれればそれで俺は幸せなんだ、だから・・・俺からの最後の

お願いだ・・・（悟と）幸せになつてくれ」

春奈『・・・先輩・・・あたし・・・それでも、先輩と過ごした日々は絶対に

忘れない・・・！だって、先輩は、私の初恋の人だから・・・

・・・
今まで本当にありがとう・・・さよなら・・・楽しく
ったよ！廉！

行つてきます・・・！』

水城『ああ・・・絶対に、幸せになれよ・・・春奈・・・

（もう、俺のところに戻ってきてくれないんだな・・・）

』

春奈『夏川春奈は、水城廉と過ごした日々はすごく幸せでした・・・！・・・

そして・・・安部悟と共に・・・幸せになります・・・
っ！あなたはっ・・・

私と過ごした日々は幸せでしたか・・・っ？！』

水城『・・・っ！最高に・・・幸せでした・・・！』

春奈は、俺に背を向けて、振り返り、俺を見て、『ありがとう』と
幸せそうに微笑み、それから一度も振り返らなかった、きつと、
彼女の想いはずっと、これからも永遠に変わることはないだろう・・・
・・・そう、願いたい。限られた時間しかなくても、二人には、幸せ

になってもらいたんだ。

（初恋の人 終わり）

15・約束

俺は、あの日、悟と約束を交わした

悟 『……………廉……………お前に頼みたいことがあんだけど……………聞いてくれるか?』

水城 『……………?……………』

悟 『俺が、死んだら、春奈を、お前が支えててやってくれ』

水城 『……………っ!何馬鹿なこと言ってるんだよ!?もう、『死ぬ』って

分かってるようなこと言いやがって!!まだ死ぬとは決まってたわけじゃ

ねえだろ!?手術で成功して、助かるかもしれねえだろ!?弱気になんなよ!!』

悟 『『もしも』の話だ。100%生きれるっていう保障はねえんだ……………』

だから……………さ、そのときは頼むよ』

水城 『絶対に死ぬな!!死んだらぶっ殺すからな』

悟 『ははっ、死んだら殺せねえよ……………お前にしか頼めないことだから

頼んだぞ、ホントに……………』

水城 『……………ああ、分かった……………でもな、春奈は絶対

にお前が支えてやれよ』

悟 『……………』

悟は、いつも、春奈のことだけを思っていて、死んだ後のことまで、考えて、

心配している、そんな、愛し合っている二人が破滅してしまうと思うと、

胸が苦しかった。悟に、ずっと生きてほしいと願った。

神様お願いです。二人に、時を、未来を与えてください。

春奈 『水城先輩……………』

水城 『……………!』

春奈を幸せにしてください、時を止めてください。二人だけの空間を与えてください。

俺の命を悟に託してもいい。二人が幸せになれるなら。

(15 . 約束 終わり)

16・永遠の約束

15・永遠の約束

私は走って悟との思い出の場所に向かった

春奈『やっぱり……ここにずっといたんだね、悟……』

悟『春奈……なんでお前、ここが……』

春奈『だって、ここは、あたし達の思い出の場所だよ?……
あたし達の……始まりの場所……』

悟『ああ、そうだったな……俺、あの時お前にオーケーもらえて、

本当。嬉しかった……ってか、信じられなかった、お前、
あの時、

本当は廉のことが 好きだったんだろ……?』

春奈『知ってたの……?!』

悟『ああ、俺、超勘いいしっ』だって、廉も春奈のことずっとす
きだったんだ……

なんか、ごめんな、あの時、この事を教えとけばこんな思い
せず

廉と幸せになれたのに……』

春奈『悟……何言つてんのよ！あたしが悟を選んだの！それに……』

あたし、全然後悔なんかしてないよ……悟といられる今が一番、

あたしにつとて幸せなんだよ……?!』

悟『そっかつ！俺も、春奈を好きになって、本当に良かった……』

こんな俺に一途でいてくれる奴なんてどこにもいねえよ』

春奈『何だよ……悟はあたしの為に、なんでもしてくれるし……っ!?!……』

一瞬で悟の唇が私の唇に触れた……

悟『バァーカ、お前だからだよ……春奈だから大切にしたいと思うんだ……』

他の奴じゃそんな、なんでもしてやろうなんて思わねえよ……

・俺、

氣い使うの嫌いだしっ!』

悟『……?……春奈……?……大丈夫か?……顔、真っ赤だぜ?』

春奈『っ……!悟が……いきなり変なこと言うから、ちよつとびっくりしただけ……っ!』

悟『（笑）ふん』

春奈『なっ・・・何笑ってんのよ!』

悟『・・・まじめな話・・・俺たち、また付き合わねえ？

俺、できるだけ生きるからっ!』

春奈『バカっ!何、そんなに弱気になってんのよっ!諦めないでよっ!生きてっ!・・・

絶対に生きて・・・、諦めないでっ・・・!』

悟『ああ・・・いつも傍に、あなたと共に、歩んでいきます』

』

春奈『・・・悟・・・大好きだよ・・・これからも、どんなことがあっても、

ずっと一緒だよ・・・』

悟『ああ・・・お前が望むことなら、なんでもしてやるよ・・・

』

春奈『うんっ!』

これで幸せになったわけじゃない、これからが、幸せへのスタートなんだ。悟といつまでも一緒にいられるように、今度は、悟が私にしてくれたように私が悟を守ってあげる。

(永遠の約束)

17・記憶

ねえ、悟、あなたは幸せでしたか？

私は、悟と過ごした時間は、凄く幸せでした。

短い間だったけど、悟と一緒にいられて嬉しかったよ。

悟は、その後、癌が進行し、入院していた。

時が経つにつれて、悟は、日々日々いろんなことを忘れていった、もちろん、私との思い出も……。ついに、来てほしくないと思っていたこの日がきてしまったのだ。

悟 『君は……。誰……。？？？』

春奈 『さと……。る？？？もしかして、あたしのこと、忘れちゃったの？？』

ホンとにこの日は悲劇だった。たとえ、悟が記憶をなくしても、悟の傍にいられば
それでいいと思っていた。でも、実際は、とても、残酷で、辛いね。
.....

ぎゅ.....（春奈は、悟を抱きしめた）

悟 『……いきなり何だよ……!!……え……?』

春奈 『……悟……お願いっ……!!あたしのこと、

思い出してよっ……!!ねえ……!!お願いっ!!

思い……出して……っ!!』

悟 『……ごめん、君の事、……思い出せない……分
からないんだ、ごめん』

春奈は泣いた。

今日の涙は、本当に悲しくて、辛いから泣いているんだよ。
前の悟に戻ってほしいと春奈は願った……。

すっ……（悟が春奈の涙をふき取った。）

春奈 『……え……?』

悟 『お願いだから、泣かないで、君が泣くと、なんだか俺まで辛
くなる』

春奈 『悟……（悟は誰にでも優しいんだね……）

あたし、……また来るね』

悟 『……（あのこは一体誰なんだろう。何か、忘れてはい
けなかった人物のような……俺にとって大切な……

……）』

水城 『悟!!来てやったぞ、大丈夫か???』

悟 『廉・・・・・・・・』

水城 『今日は中学のときのアルバムを持ってきてやったぞ、懐かしいだろ？』

悟 『ははっ、ごめん、廉、あんまし覚えてねえや・・・・・・・・あれ？このこ・・・・・・・・』

水城 『ん？ああ、夏川も同じ中学だからな』

悟 『夏・・・川？？』

水城 『もしかして、忘れちゃったのか？』

悟 『よく、分からない・・・・・・・・思い出せないんだ・・・・・・・・』

水城 『そっか・・・・・・・・体のほうはどうだ？？？』

悟 『ああ、順調に回復しているみたいだよ』

水城 『よかった、高校の写真も新聞部からもらって来たぞ、学園祭のかな？』

悟 『また、この子だ・・・・・・・・いつも俺と一緒にいるな・・・・・・・・』

水城 『お前・・・・・・・・本当に、覚えてないんだ・・・・・・・・』

悟 『ああ・・・・・・・・でも、なにか、思い出せそうな気がするんだ・・・・・・・・』

水城『そつか、．．．そういえば、来週、手術だろ？頑張れよな、これで成功すれば、お前は．．．．．』

悟『ああ、でも、失敗したら、もう、戻ってこれない．．．．．そのときはあのこに伝えてくれ、『思い出してやれなくてごめん』って』

水城『．．．．．ああ、分かったよ、もし、そうになったら．．．な』

悟『ああ』

水城『．．．．．絶対に．．．』

悟『？』

水城『絶対に思い出せよっ．．．．．！！』

悟『．．．．．』

彼女のことはよく思い出せない．．．．．でも、思い出してあげたい．．．．．．．．．．
思いださなければいけない人のような気がするから
大切な人のような気がするから．．．．．
だからこそ、早く、思い出してやりたいんだ。

18. 生きて

ついに、悟の運命の手術の日が近づいてきた。

春奈「明日、手術だよね……がんばってね」

「春奈さん……俺は、君にとって、どんな存在だった？」

春奈「……大切な……存在だった……恋人だった……」

「そっか……。今でも……。俺のこと好き??」

春奈 え？
・
・
・
・
□

ぎゅ・・・・（悟は春奈を抱きしめた）

悟 「少し……思い出せそうな気がするんだ……君のこと……」

春奈「さ……る？」

「絶対に、思い出してみせるから……それまで待つてて」

春奈「うん……大好きだよ、悟……」

水城ミヅ………つたく、悟の野郎、いいとこばかり持ってき

やがって（笑）』

次の日、ついに、悟の運命の日がやってきた。

悟 『じゃあ、行つて来る』

水城 『夏川．．．遅いな．．．』

悟 『しょうがないさ．．．これが終わって、帰って来れたら、彼女のことを

思い出してやるって約束したんだ．．．．．』

水城 『そっか．．．夏川との約束を守るためにも、必ず帰ってこいよ！！』

悟 『ああ』

春奈 『悟っ．．．！！！！』

水城 『夏川！！』

悟 『春奈さん．．．．』

春奈 『がんばってね！！！！あたし、信じて待ってるから．．．．．っ！！』

悟 『．．．．必ず、戻ってくるから、待ってて』

春奈『・・・っうん・・・待ってる・・・っ!!!』

春奈は泣きそうな顔をしながら言った。

悟『うん』

そのときの悟は、とてもたくましくて、すごく凛々しく見えた。

『必ず戻ってくるから』悟が最後に言った言葉も、力強く聞こえた。

『（絶対に悟は戻ってきてくれる、だって、約束したら、悟は必ず守ってくれたもん

・・・だから、きっと・・・今回も大丈夫・・・生きて・・・）』

19 退院

春奈『……（悟、大丈夫かな……悟がいなくなったら、あたしには何が残る？……一人ぼっちになっちゃう……

……
どうしよう……嫌だよう……悟……死な
ないでっ……！！）』

春奈の目には涙があふれ出ていた……。

水城『んな顔すんなよ、まだ、決まったわけじゃないだろ？

勝手に悟の運命決め付けんなよ……。

あいつだって、がんばってるんだ。今だって、生きようが
んばってんだ

お前、あいつに待ってろって言われたんだろ？！なら、待っ
てやらなくちゃ駄目だろ

あいつを……悟を信じてやれよ……お前が信じなき
や誰があいつのこと

信じてやんだよ、あいつにだって、お前しかいないんだよ……
……』

春奈『……うんっ……そうだよ、悟は今も、生きようと
がんばってるんだ。

あたしが、信じてあげなきゃ、悟と、約束したんだもん、必
ず戻ってくるって、

だから……待ってろって……だから、大丈夫っ……

……！！』

手術室から先生がでてきた

水城『先生つ．．．！！悟はつ．．．！？』

医師『大丈夫です。悟君は、一人でよくがんばりましたよ、しばらく安静にしていれば、退院もできますし、普通に生活もできます。』

記憶も、何かの衝撃などでも戻ってくるでしょうし、もう、忘れることは

ありません』

水城『ありがとうございます！！．．．でも、先生、悟は、一人で頑張れたんじゃないやありませんよ．．．春奈がいたから、頑張れたんです』

だから、悟は。春奈と二人で頑張ったんです』

医師『ああ、そうだな、今回は、悟君だけでは普通、頑張れなかった、しかし、

悟君も、悟君自身では頑張ってくれたことだけは、認めてあげてくれ．．．．』

水城『．．．分かっています。』二人で頑張った』ということは、悟も十分に頑張ったんです』

医師『二人』だけじゃない。君も、彼をいつも影で支えてくれていたじゃないか』

水城『いえ、そうだとっても。彼女にはかないませんよ．．．．』

医師『…………君は、本当に友達思いのいい奴だな…………尊敬するよ…………』

水城『……………』

水城は、先生の顔を見た。すごく優しい笑顔で微笑んでいた。

水城『少なくとも、先生には及びませんよ…………』

春奈『先生、本当に、ありがとうございました!!』

医師『いや、私は、自分にできる限りのことをしただけだよ。

もしかしたら。悟君は助からなかったかもしれない。

これは、君たちと悟君の出した努力の結果だよ』

春奈『別に、あたしは何も…………もう、大丈夫なんですか?!』

医師『ええ、でも、まだ麻酔が効いていますので、今しばらくは……………』

春奈『それだけでも十分です、先生本当に、ありがとうございました…………っ!!』

先生は、私たちに背中を向けて去りなら手を振った

水城『一人で行ってこいよ……………』

春奈『え？でも・・・』

水城『俺のことはいいから行ってこいよ、終わるまで待っててやるからさ』

春奈『・・・！・・・うん・・・ちょっと待っててね』

悟は、静かにベッドで眠っていた。

春奈『悟・・・約束守ってくれてありがとうね』

春奈は静かに悟にキスをした。

手術から二週間後、ついに、悟は退院することになった。

春奈『退院おめでとう！！悟』

悟『ありがとう、春奈さん・・・』

春奈『・・・今日は水城先輩これないんだって、残念だね』

悟『そうだね、でも、廉も忙しいからね』

春奈『そうだっ！！ねえ、悟、今度みんなどこかに遊びに行こっ
♪

悟の退院を祝ってさっ！！』

悟 『別にいいけど……どこ行くの??』

春奈 『みんなで決めよ』

悟 『みんなで?』

春奈 『うん、どうかしたの?』

悟 『……だって、俺と春奈さんは恋人なんですよ？

だったら二人のほうがいいんじゃないかと思って……』

春奈 『え?でも、いいの?あたしは悟のこと知ってるからいいけど、悟にとっては知らない人なんだよ??そんな私と二人で遊ぶなんて……』

悟 『俺が春奈さんのこと忘れてしまったのがいけないんだよ。だから、

春奈さんには辛い思いをさせてしまったから……お詫びがしたくて……

あと、思い出すかもしれないし、それに、一石二鳥だろ?）
笑）』

春奈 『悟……ありがとう……』

悟 『ってことで、春奈さんの行きたいところ、どこでも行くよ、だから、考えといてね』

春奈 『うん!!楽しみにしててね』
『いつがいいかなあ???』

悟 『先生に『一、三週間は家で安静にしてろ』っていわれたから来月になっちゃうかな』

春奈 『うん、別にあたしはいつでも大丈夫だから、悟が都合のいい日でもいいよ』

それに、せっかく直ったのに、また病気になっちゃたら大変でしょ？』

悟 『そんなに病気にかかったら大変だよ』

春奈 『確かに・・・こっちが大変かも！！（笑）』

悟 『だね』

春奈 『そういえば来月っていえば悟の誕生日とクリスマスじゃん！！』

悟 『そうだったっけ、忘れてた』

春奈 『クリスマスが誕生日とか、すごいよね！！んじゃあ、クリスマスは？！』

悟 『いいよ、別に俺、いつも一人だから暇だし』

春奈 『え？『いつも』って・・・だって家族とか・・・』

悟 『俺、両親いないんだ、離婚して、俺は、母親と一緒に暮らしてたけど。』

母さん、体弱くてさ、小4のときに死んだんだ、』

春奈 『そうだったんだ．．．あたし、何も悟のこと知らないで．．．』

悟 『そんなことないって！！よく知ってくれてるだろ？俺のこと．．．．．』

春奈 『でも、今年は一人じゃないよ．．．．．』

悟 『え？．．．．．』

春奈 『あたしが一緒にいてあげるから』

悟 『そうだね．．．．．』

やっと、幸せになれると思ってた．．．．．
なのに、どうして？神様は酷いね。

そう簡単には幸せにさせてくれないんだね．．．．．。

20・クリスマス

もう、12月突入で、クリスマスがきた。

約束の時間に、また、前と同じ場所で悟と待ち合わせた。

春奈『今回は少し早く来ちゃった。．．．．．それにしても

久しぶりだなあ、こうやってまた悟と遊ぶの．．．．．』

この日が、ずっと待ち通しかった。ずっと、また

こんな日がくるように願ってた。早く、悟があたしのこと
思い出してくれるといいな．．．．．

春奈『悟、遅いなあ．．．．．』

その頃の悟

悟『やばっ！！のんびりし過ぎた！！春奈さん怒ってるかな．．．

』

（ブオー）車がすごいスピードをだして走ってきた。

悟『なんだあの車。スピード出し．．．て．．．危っねっ．．．

！！』

（キイイイ）小さい子供がいきなり道路に飛び込み、轢かれそうになった。

悟 『・・・・・・・・・・は・・・・・・・・・・るな・・・・・・・・・・』

子供 『お兄ちゃん??』

女性 『大丈夫ですか?!・・・・・・・・・・』

意識がない。

女性 『誰か!!早く救急車を呼んでええっ!!!!』

その頃の春奈

春奈 『さすがに遅すぎるよね・・・・・・・・忘れちゃったのかな・・・・・・・・?』

でも、悟に限ってそんなことは・・・・・・・・先生も、もう忘れることはない

って言ってたし・・・・・・・・やっぱり・・・・・・・・何かあったのかな・・・・・・・・・・』

一時間近く待っててもまだ来ない悟。変な感じがした春奈、いつもとは、何かが違う。

そんな変な勘が当たってしまった・・・・・・・・・・

（トゥルルルル）携帯が鳴り響いた。

春奈『・・・誰だろ、悟かな？・・・あれ・・・？水城先輩だ、な
んだろ？？』

春奈は電話にでた。

春奈『もしもし・・・？水城先輩？』

水城『夏川！！今どこにいるっ！？』

春奈『S駅の・・・』

水城『っ・・・！！大変なんだ！！悟が・・・っ！！』

春奈『えっ？・・・悟が・・・？』

春奈は急いで病院に向かった。

『（悟！！なんでよ！！！！いつもいつも迷惑ばかりかけてっ！！
お願い！！神様！！悟を助けて・・・っ！！あたしから悟を奪
わないで・・・っ！！）』

21・未来時計

春奈は急いで病院に向かった。

すると、危険な状態の悟がベットに横たわっていた。

頭には包帯がまいてあり、腕や足にはたくさんの包帯や傷があった。

春奈『悟！！なんでよ！！！せつかく・・・病気が治ったって
いうのに・・・っ！』

水城『すごいスピードで突っ込んできた車に轢かれそうになった子
供を悟が助けたんだ』

春奈『・・・は・・・』

水城『？』

春奈『・・・その子は助かったの・・・？』

水城『・・・ああ、無事だ。擦り傷と打撲程度ですんだみたいだ。
・・・』

春奈『そう、ならよかった。・・・こんなに無茶ばっかして。
・・・っ！！』

ほんとにお人よしなんだからあ・・・っ！！・・・』

泣き叫ぶ春奈

医師『状態は随分、安定してきましたが、意識は、まだ……』

春奈『悟……っ！』

水城『春奈……大丈夫だよ、今回もきつと、悟は、俺たちの前に

戻ってきてくれるよ』

春奈『……っひく……うん……っ……』

悟『え……俺……！？……なんでっ！！』

それに………なんでみんな泣いてるんだ………

？』

(ぱあ) 辺りが大きく光った。

悟『なんだっ？！』

悟はいつの間にか、真っ白な空間にいた。そこに、見知らぬ幼稚園ぐらいの女の子がいた。

幼女『ここに行っちゃ……ダメ……』

悟『え？君は一体……？』

（スウ……）女の子が消えた。

幼女『こっちだよ……』

悟『うわっ！！』

それと同時に大きく光り、悟はいつの間にか病院の前に立っていた。
女の子は歩いて病院の中へ入って行った。

悟『ここって……俺が入院してた病院……なんでここに……？』

女の子の後を追って行くと、先生と春奈と、廉がいる病室に入った。

悟『……俺だ……先生に、廉も……あれ？この子、誰だっけ……』

幼女『お兄ちゃんは……死んじゃったんだよ。だからみんな悲しんでるの』

悟 『俺が……死んだ……？……嘘だろ……？！』

幼女『……お兄ちゃん、この人のこと、思い出せないの？……なら、

あたしが思い出させてあげる……』

女の子は悟に手を差し伸べた。悟は女の子の手を握った。すると、頭の中に、いろいろな情報が流れてきた。これは……そう。

春奈と過ごした記憶だ。でもなんでこの子が春奈のことを……春奈？……

幼女『お兄ちゃんには……思い出してもらわないと困るから……』

悟 『……春奈……』

幼女『思いたせたみたいだね（笑）』

お兄ちゃんは、こっちに来ちゃダメだよ。戻ってあげて、ママのために……』

悟 『えっ？ママ？……ママって。もしかして……待って！君の名前は！？』

美羽『美羽』。未来で待ってるね。バイバイ、パパ……ママのこと……

大切に覚えてね……』

(スッ) 体に悟が入っていった

(ピッピッ．．．．) 機械の音。

悟 『ここ．．．．は．．．．』

春奈 『悟！！生きてるの！？、よかったあ．．．．っ！！

ほんとにダメかと思ったあ．．．．っ！！』

悟 『勝手に殺すなよ！！！！．．．．でも、俺、一度死んだんだ．．．．』

水城 『はあ！？死んだって、お前、生きてるじゃないか？！』

悟 『俺、自分と、お前たちを見たんだ、さっき、変な白い空間に行って、

女の子に会って．．．．』

春奈 『女の子？？誰よそれ！！』

悟 『違うつて！！そのこのおかげで戻ってこれたんだ春奈のこと
も思い出させてくれた』

春奈 『じゃあ、あたしのこと、覚えてるの？！』

悟 『ああ．．．みんな思い出した』

春奈『よかった．．．』

悟『そういえば妙なことを言った』

水城『『妙なこと』？』

悟『ああ、俺のこと『パパ』とか呼んで、『ママ』のことよろしくとか、思い出してもらわないと困るとか．．．．．『美羽』っていう名前なんだけど、親切にしてくれて．．．

その子のおかげで俺は戻ってこれたんだ．．．．あの子
が助けてくれなかったら

俺は死んでいた．．．．何の関係もないというのもおかしい
と思つて．．．．．』

春奈『．．．．そのこはきつと、あたしと悟の子よ』

水城『え！？お前ら！！いつの間につ！！？』

春奈『そうじゃなくて。悟が死にそうになつたからそのこが助けてくれたのよ、きつと。

だって、悟がいなかったら、そのこは生まれてこないもの。
未来の時計から悟の危機を感じてやってきたのよ．．．．．

』

悟『『未来の時計』．．．．か．．．．そうかもしれない．．．
．．．．

もう少し待つてくれよ、『美羽』、会いにこさせてやるか
らな』

春奈『．．．．．未来で待つててね美羽．．．．．』

これから先、未来はどうなるかは、まだ、誰にも分からない。

でも、分かってしまっていたら、いいようにばかり進んで、それじゃあ、まるで、シナリオどおりに芝居しているみたいだ。

そんなのつまらない、生きてる意味がない。

だから、神様は何もしてくれないんだと思う。

きつと、私たちに、『自分の力で幸せになれ』と、いつているんだと私は思う。

未来が分からないから人は必死に努力して、幸せをつかもうとしているんだ。

私たちの未来が、明るい未来とは言い切れない。

つまずいてしまうこともあるかもしれない、
どうしようもなく辛い未来が待っているかもしれない。

けど、私たちは、未来に向かってまっすぐに、突き進むんだ。

未来では、あの子が待ってる・・・・・・・・どんな試練が待ち迎えていても、

悟と二人でなら、怖くない。

愛する人となら、明るい未来でも、暗い未来でも、歩んでいける気がする・・・・・・・・

『未来時計よ、永遠に動き続けよ』 私たちがそちらに行くまで、待
っていてください。

必ず迎えに行きます。それまで待っていてね、『美羽』…………。

21・未来時計（後書き）

今まで、『未来時計』を読んでくださった皆様。本当にありがとうございました。

私は、自分の書いた作品をぜひ、誰かに読んでもらいたくて、初作品『未来時計』を投稿しました。

いかがでしたか？

あまり、良い作品では、なかったと思いますが。

皆様が何か、この作品を読んで、感じたり、変わったりしてくれたら私はすごく嬉しく思います。

それに、皆様にこんな作品を読んでもらえたことだけで、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後にタイトルの

『未来時計』とは一体なんだったのか。

これは、私たち『自身の時計』と言すべきもの
なんでしょうか？、つまり、『未来に続く時計』です。

もし、本当に未来の空間があるとするなら、今の私たちの時間と、
未来の時間は、
つながっているわけです。

たとえば、私たちが、誰かと付き合つと、未来では、もしかしたら、

その人と結婚している。

つまり、今の私たちが、未来を変えているのです。

ストーリーでもあったように、『美羽』って女の子が最後に悟の前に現れましたよね？

その子が、『思い出してもらわなくちゃ困るから』と言ったのは、悟が死んでしまったら、春奈と、悟は結婚して、美羽は生まれない。

過去が変わってしまったから。全てが変わってしまう。

あの時、悟が遅行せずに待ち合わせの場所に着き、小さい子を助けなければ、未来はそのままだった。美羽も生まれていた。

つまり、未来は変わらない。

でも、その子は、未来には存在しない。でも、未来には悟と美羽は存在する。

悟がその子を助ければ、未来は、変わり、悟は未来に存在しなくなる。

美羽も存在しなくなる。

なので、今の自分の行動ひとつひとつが、自分の、周りのいろんな人の未来を変えるのです。

だから『未来に続く時計』の『時計』は、私たち、未来を変えるのも、私たちなのです。

でも、これは、空想の世界で、あくまでも作者の想像での結論なので、正直のところ、私にはこれ以上なんともいえませんが。

でも、本当に、未来の空間というものが実際に存在したら、あなたは どう思いますか???

『未来時計』の番外編も投稿する予定なので、ぜひ、読んでください。

現在、連載中の、『正直者のプリンセス』のほうも、どうぞ、よろしくお願い致します。

読んでくださった方々はぜひ、コメント、評価をよろしく願います。

皆様からもらった意見やアドバイスなどは次の小説にいかしていきます。

作者：みゆりい より

番外編〜三人は永遠に〜（前書き）

お久しぶりです!!

ついに!!番外編です!!

あの日から11年後。春奈たちは一体どうなっているのでしょうか？
廉と春奈の仲とは一体・・・・・・？

美羽（娘）はある日、悟に・・・・・・？！

番外編／三人は永遠に／

??? 『ままあ！！早く起つきしてえ！！遅刻しちゃう！！！！』

春奈 『はいはい。』 『美羽』 はいつも早起きね。でも今日は土曜よ？』

美羽 『今日は、遊園地行く日だもん！！！！』

春奈 『分かってるわよ（クスッ）』

みなさん、久しぶりです。夏川春奈です。私達はその日から五年後めでたく『安部悟』と

結婚しました！！一年後には、子供ができ、名前は、不思議なあの少女と同じ、『美羽』と

名づけました。美羽も、今年から幼稚園生で、私はいつの間にかもう、28歳のおばさんになってしまいました。

美羽 『まあ／＼まあ／＼！！早くう！！！！』

春奈 『じゃあ、ママは今からご飯とお弁当つくるから、パパを起こしてきてくれる???』

美羽 『はい！！！！』

すくすく元気に育ってくれています。悟がいうには、美羽は、あの日見た少女とそっくり

らしい。やっぱり。悟が見た女の子は、未来から美羽だったのかな？と、思います。

その頃。寝室では

美羽『パパー！！早く起つきしてー！！』

悟『うう………』

どすん、どすん（美羽が悟のベッドの上で跳ねている）

悟『分かった……美羽、起きるからそこをどきなさい』

美羽『パパ……怒っちゃ。や……！！ままあ……！！』

美羽が泣きながら春奈のところに走って行った。

悟『ああ！！こらあ！！………ったく美羽のやつ……』

悟は、春奈のいるリビングに行った。

春奈が怒っていた。もちろん。美羽が言いつけたんだろう。

春奈『パパー？！』

悟『はい』

春奈『せっかくかわいい愛娘が起こしに行ってくれたのに怒鳴りつけることないでしょ？！』

悟 『俺は別に怒鳴ったわけじゃ……』

春奈 『言い訳はいいから美羽に誤って!』

悟 『春奈』

春奈 『美羽の前では『ママ』よ』

悟 『……言い過ぎたよ、ごめんな、美羽』

美羽 『ううん、いいの。美羽はパパのこと大好きだから許しちゃう
』

悟 『(やつぱかわいいなあ、春奈にそっくり……)』

美羽 『ぱあぱあ??』

悟 『パパも大好きでしゅよ!!』

美羽 『キャ』

春奈 『(……悟、なんかキモい。親バカみたい……)』

春奈たちは、遊園地に向かう途中。

美羽 『ままあ』

春奈『ん〜???どうかしたあ??.』

美羽『美羽。ここ知ってるよ』

春奈『え?!おじいちゃんかおばあちゃんとでもきたの?!』

そこは、美羽が生まれた病院。つまり、二人があの日、結ばれた場所だった。

美羽『ううん、なんか、見たことある、懐かしい……そのときはパパがいたような』

気がする……』

悟『俺が?!』

美羽『うん!!それより聞いてっ!!美羽ね。パパと会ったことあるんだよ』

悟『美羽。パパと美羽はいつも会っているだろ?』

美羽『違うもん!!違うパパがいたんだもんっ!!白い空間に……』

春奈『白い……空間????……美羽、本当なの?』

美羽『うん、ママにも会ったよ。でも、パパが、どこかに行っちゃいそうに』

なっちゃったからとめたの。ここにいちゃいけないよって』

悟 『そっか・・・パパな、美羽が生まれる数年前。ママと結婚する前に、一度、

車に轢かれて死にそうになったんだ。そして、今の美羽とそっくりな女の子に

会ったんだ・・・その子が、パパを助けてくれて、それで今、パパがいるんだよ』

美羽 『きっと美羽がパパを助けたんだ♪ きっとそうだよ!! あの病院に、いたもん!!』

春奈 『そうね、美羽はパパの命の恩人ね』

美羽 『うん!! パパに似た人が迷子になってたから助けてあげたの!! この人は、

パパとママと美羽と関係のある人だと思ったから』

悟 『ありがとな、美羽。導いてくれて』

美羽 『?・・・うん!!』

遊園地に着いた。

悟 『ああ!! 廉!!』

水城 『よっ!! 久しぶりだな、悟。それに・・・春奈』

春奈 『水城さん・・・久しぶりです』

水城『おい、いまだに敬語はないだろ?! 相変わらずつれないなあ、お前は』

春奈『すみっ・・・あっ! ごめんね』

水城『別にいいけどさ、俺は春奈のそういうところが好きだからさ』

春奈『えっ?!』

悟『・・・廉・・・!! お前・・・!! (怒)』

水城『どうしたあ? 悟、んなに顔真っ赤にして(笑)』

悟『(ぶちっ) お前っ!! 何で今まで結婚しなかったか今わかったぞ?!』

水城『だからなんだよ?』

悟『お前。まだ春奈のこと・・・』

水城『何いまさらんなこと言ってるんだよ、お前の方が断然有利なくせに』

悟『やっぱりそうだったのか!! でもな、廉、俺にはもう、『美羽』という愛娘が!!!』

つて、おい!! 聞けよ!!』

水城は、悟の話をきいておらず、春奈と美羽と話していた。

美羽『おじちゃん、だあれ？？』

水城『こんにちは、パパの親友の水城です』

美羽『はじめまして。あたしは美羽。おじちゃん、パパの友達なんだ♪』

水城『そつだよ。それと、ママとはもと．．．．』

春奈『水城さんっっ！！美羽にそういう話はまだ早いですよっっ！！』

水城『まあまあ』

美羽『わかったあ！！恋人だあ！！おじちゃんとママは恋人だったの？！』

悟『ぶっ！？（吹いた）』

春奈『どこでそんな言葉．．．！』

水城『正解♪』

美羽『じゃあ、今でもママのこと好き？？？』

春奈『ちよつと！！美羽！！それは昔の話よっ！！』

水城『．．．．ああ、好きだよ』

美羽『じゃあ、どうして?! どうしてママと結婚しなかったの?』

水城『それはね、美羽ちゃんのママの幸せのためだよ……』

美羽『ママの……ため?』

水城『そう。美羽ちゃんのママは、おじさんじゃなくて、パパを選んだんだ。

だから、ママの幸せのために、ママのことを諦めたんだよ……』

美羽『……おじちゃん、なんか可哀相……』

水城『ありがとう。美羽ちゃんはママに似て優しいね』

春奈『……水城さん……』

悟『……』

美羽『そうだ! ! じゃあ、おじちゃん、いつでも美羽のお家においてよ! ! 』

ママに、いつでも会わせてあげるっ! ! 』

水城『ははっ、それはね、美羽ちゃん、できないことなんだよ』

美羽『どうしてえ? どうしておじちゃんは、ママに会えないの? おじちゃんは、

ママに会いたくないの? お仕事忙しいの? 』

水城『それは……』

春奈『わたしは、かまわないですよ、水城さん、いつでもいらしてください』

娘の顔を見にでも、悟に会いにでも………』

水城『いや』

悟『？』

水城『春奈さんにも会いにいきます』

春奈『………！………ええ。ぜひ、いらしてください』

この後、四人で遊園地で遊んだ。美羽は、いつもより、すごく喜んでくれた。

水城さんのおかげだな♪

数日後。

悟『お前！！なんで！！！！』

水城『おはよう。悟。朝食はできてるぞ』

春奈『おはよう』

悟『春奈！！なんでこいつが？！！』

春奈『遊びにきてくれたのよ。美羽の面倒も見ってくれるからすぐ助かります』

水城『いや、気にしないでください春奈さん』

悟『そっ！なっ！はっ……！！（そんな！なんでだよ！？春奈！ー！）』

美羽『ままあゝ。ぱぱあゝおはよう』

水城『美羽ちゃん、おはよう』

美羽『ああ！！廉おじちゃんだあ！！おはよう！！』

水城『うん。おはよう』

悟『……廉……！！妻と娘に手をだすなよ？！』

水城『はっ！！何をいつちよ前に妻とか娘とか言いやがって』

悟『なっ！！お前の目的はなんなんだ！！』

水城『目的なんてねえよ。お前から春奈と美羽ちゃんを奪つつもりはないよ。』

ただ……毎日じゃなくてもいいから、会わせてくれ……
……』

悟『……っ……！！勝手にしろ！！』

春奈『悟！！』

悟 『いつでも遊びにこいよ。俺とお前は親友だし、俺たちは、友達だろ……。？』

水城 『ああ……。そうだな……。』

三人は永遠に一緒。

番外編〈三人は永遠に〉（後書き）

番外編『三人は永遠に』はいかがでしたか？

これからは、新しい小説も書きたいと思います。

今。考えているのは、春奈と悟の子供、美羽の高校からのストーリーの小説を考えています。

水城の子供も考えています^^

これからも、どうぞ、『みゆりい』の作品をよろしく
お願いいたします。

評価、感想をお読みになった方は、
よろしくお願いいたします。

作者：みゆりい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6004h/>

未来時計

2011年3月28日07時56分発行